

01

地域づくり×青年海外協力隊  
「開発途上国から日本の地域へ」  
シンポジウム開催

5月10日、JICA地球ひろば(東京・広尾)で、地域づくり×青年海外協力隊「開発途上国から日本の地域へ」シンポジウム(主催・国際開発学会「日本の地域振興と国際協力」部会、共催・JICA、後援・総務省、農林水産省)が開催されました。

このシンポジウムは、日本各地で地域づくりに取り組む青年海外協力隊経験者の事例を通じて、途上国での経験が日本社会にどう生かせるかを考えるもの。会場には、協力隊志願者や経験者、まちづくりに取り組む人など約200人が集まりました。

「日本の地域が変容し地域振興にも新たな形が求められる今、途上国の地域で活動した協力隊の経験とノウハウは貴重」という名古屋大学大学院国際開発研究科・西川芳昭教授の基調講演に始まり、アジア経済研究所・佐藤寛さんの進行のもと、協力隊経験者3人によるパネルディスカッションが行われました。

パネリストの熊本県芦北町役場の寺川廣治さん、新潟県で「多世代交流館になこく」代表などを務める佐竹直子さん、福井県田谷農園の田谷徹さんはそれぞれの取り組みを紹介し、「途上国で活動して、地元を見る目が変わった」、「ネットワークを築くには、皆で協力しながらやるのが大切」、「周囲の主体性を引き出しつつ、今までにない仕掛けづくりをしていきたい」などと話しました。

また、来場者との活発な意見交換も行われ、途上国での経験が日本の地域に貢献しうる可能性を共有する場となりました。

(18ページに関連記事)

02

「アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)」  
第2回本会合開催

6月3〜4日、東京・市ヶ谷のJICA研究所で、サブサハラアフリカのコメ生産の倍増を目指す「アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)」の第2回本会合が開催されました。

基調講演で、緒方貞子・JICA理事長は、「アフリカで緑の革命を実現するため、JICAは協力を拡充していく」と表明し、続いてアフリカ緑の革命のための同盟(AGRA)のコフィ・アナン理事長(前国連事務総長)が、「アフリカとアジアが協力することで、世界の食料安全保障に新たな可能性が生まれる」と期待を述べました。

本会合に先立ち、アナン理事長と緒方理事長の立ち会いの下、JICA-AGRAの連携強化に関する覚書が締結されました。



「カフェ クロスロード」で行われた懇親会。最後は来日中の研修員も交え、皆で「イマジン」を合唱

03

「なごや地球ひろば」  
オープニングイベント開催

世界の課題や国際協力について学べる体験型施設「なごや地球ひろば」のオープンを記念したイベントが、5月30日に開催されました。冒頭、JICA中部の稲葉誠所長は、「なごや地球ひろばに来れば『何かを学べる』『何かに出会う』『面白い』『なごや』などと、たくさんの方に思っていたら、中部地域から日本を元気にしていければ」とあいさつしました。

続いて行われたのは、桑山紀彦さんの音楽と映像、語りによる「地球のステージ 国際協力版」。世界各地で医療ボランティアを行ってきた桑山さん。「国際協力は、見て見ぬふりをしない人の生き様」と来場者にメッセージを伝えました。また、この日のために撮影したJICA中部の映像にのせた楽曲「応援花」も披露しました。



JICA-AGRA連携強化に関する覚書の署名式の様子